

新居宿



新居関所周辺まちづくりの会
協力 新居宿史跡案内人の会

波乱万丈の新居宿

慶長6年(1601)徳川家康公は宿駅仮馬制度を導入し、東海道を沿って5街道の整備に着手した。新居宿では1600年に関所が設置されました。当初浜名湖西岸にありました。しかし、元禄12年(1699)の台風の高潮の被害に合い関所と城岡を移転した後、宝永4年(1707)の大地震と津波により宿場は壊滅し、再度の移転せざるをえなくなり、宝永5年(1708)、わずか3ヶ月の突貫工事で現在の地へ移転しています。(惣町移転)。移転に先立ち吉田藩作奉行・土肥孫兵衛は、寺社を山麓に配置し甚盛目の京都風の町並みを新居宿に導入し、今もその町割りや雰囲気が残されています。

新居という名は、持統5年(691)伊場木館に新井里人と記され、天平12年(740)正倉院文書「遠江国浜名郡輪根帳」に新居郷の名が記されています。それ以後、慶長5年(1600)新居関所が開設されるまで歴史には登場していませんでした。一方、横本村(新居宿より西へ1km)は貞観4年(862)勅意によって建造された長さ167m・幅4m・高さ5m、全国四大構のひとつ「浜名の構」と共にクロスアップされ、「更科日記」「十六夜日記」にも登場しています。

元禄15年(1702)幕府は直轄だった関所及び周辺の村々を吉田藩に編入しました。その際の検地帳に「遠江国敷地郡新居町」と記していますが、荒井・あし井・阿ら井・新井など、「居」を「井」と誤ることが多いようです。

新居関所・昭和史料館

(国指定特別史跡 昭和30年指定)

幕府は江戸を守るために53ヶ所の関所を設け、「大鉄砲と出女」について厳しい取り組みをしました。特に新居関所は100年間、幕府直轄として最高の警備体制が敷かれていました。通行の際には各種の通行手形が必要となり、当所では江戸へ向かう女性の入り方手形も必要でした。現在の関所は嘉永7年(1854)の地震・津波で倒壊したため、安政2年(1855)に建てられたものです。明治以降、学校・町役場として使用され日本でも唯一現存する関所です。

●開館：09～16:30 ●休：月曜日・年終年末・8月無休
●大人300円・小学生100円
*紀伊国屋共通入館券大人400円小人150円 団体割引有

小松楼 (国登録有形文化財)

新居では大正時代以降、関所の南側に数寄屋が広がり、多い時は60人から80人の芸者がいたと言われています。小松楼は大正から昭和20年代頃まで芸者置屋及び小料理屋を営みました。建物は明治末期以前のもので、現在は地へ移築し、その後数回の増改築を行っています。2階は座敷となっており、独特の周取やべんがら色の壁などが当時の面影を残しています。平成18年からまちづくりの会有志により小松楼の修復・活用事業を行っています。

新居宿旅館紀伊国屋資料館

関所から内側には20軒軒の旅籠(現在の旅館)が建ちました。紀伊国屋は紀州藩の御用宿として旅籠です。平成13年に解体修理し、当時の風情を体験できる施設として公開しています。

●開館：09～16:30 ●休：月曜日・年終年末・8月無休
●大人200円・小学生100円
(新聞館共通入館券大人400円小人150円) 団体割引有

三軒の本陣

新居宿には、張五助(188坪)・武兵衛(196坪)・八郎兵衛(193坪)と3軒の本陣があり、大名・勤使・公家・高僧・旗本・幕府役人などが宿りました。また、各本陣には御用達の産が湧き出ていました。現在は武兵衛本陣が残っています。

寺道

宝永の地震後、神社仏閣がすべて山麓に配置された京都風町並み。現在でも細い路地沿いに7社寺が並んでいます。それぞれ社寺にはいわれや伝説があり、町の風情を醸し出さずには新居宿の歴史の一端を垣間見ることができます。

諏訪神社

新居宿の神社の中でもひと際大きな神社で、江戸時代から300年続く夏風物詩「手荷花火」が奉納される神社として知られています。入口には樹齢450年を越えるケヤキ(町指定天然記念物の御神木があります)。拝殿内には土肥孫兵衛寄進の石燈籠(町指定文化財)も残されています。

船回り場跡

江戸時代、これより東側は浜名湖でした。新居宿では120艘の渡し船があり、6組に分れて一日1組が稼働していました。ここは当日使われない船を係留しておく場所です。対岸の舞殿には渡し船用の船は許可されず、渡船業務は新居宿の独占となっていました。

常夜灯

秋葉常夜灯は、火災防止の祈願と街灯の役目があり、新居町内全盛で13ヶ所、新居宿には7ヶ所あります。船町常夜灯は精堂を持ち、最大級の規模で灯台の役目もしていました。

寄馬跡

常備の馬車には随分と、助郷から集められた人馬の継立寄馬所であった。助郷制度は寛永12年(1635)参勤交代が制度化されたころから始まったシステムです。

池田神社

この神社は、天正12年(1584)4月9日小牧・長久手の戦いで戦死した池田輝元高信の首を埋葬し首塚を建て、後に永井能登守が家康の内意を受けて祠を建立し、享保20年(1735)京都吉田家より、整備神神の神号を授かり、整備神社(通称池田神社)とします。祭宇は伊藤家(京都市在住)が務め、個人が管理している神社です。

住吉神社

町の夏祭りのはしりが住吉神社の祭礼で、新居では浴衣を着始める日となっています。海上安全や豊漁祈願が盛んに行われています。

新居宿の見所いっぱいコースです!



新居関所周辺まちづくりの会 NPO法人 新居まちネット (申請中)

浜名郡新居町新居1190-3
ホームページ <http://a-machinet.org/>
Eメール info@a-machinet.org